

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		5/13~5/20	5/20~5/27	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.098	0.12
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.041	0.048
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.039	0.048
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.065	0.23
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.023	0.050
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.25	0.052
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.044	0.038
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.067	0.090

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		5/13~5/20	5/20~5/27	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.023	0.041
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	0.015

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

原発事故によって放出された放射性物質の大半が、放射性ヨウ素131と放射性セシウム134および137であったことを記憶されていますか？放射性ヨウ素131の半減期は約8日間でほとんどが消滅しました。セシウム134は半減期が約2年で当初量の4%程度になっています。一方、セシウム137の半減期は約30年で、今も当初量の80%が残存し、自然消滅には時間が必要です。セシウム137の多くが土壌成分と結合しており、チリやホコリとして舞い上がったものを口から吸い込まないように注意が必要です。そこで空中に舞い上がった量などを監視するため、大気浮遊じんに含まれている放射性セシウム濃度の観測を続けており、今回も、セシウム137が平均0.07 mBq/m³と極めて低い濃度であり、健康影響という点で心配は不要です。